

ヨコハマ市民まち普請事業

整備事例集 vol.9

●●● 平成 26 年度整備事例集

私たちのまちを
私たちでつくる
きっとまちが好きになる



ふ-しん【普請】「普く請う(あまねくこう)」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。

「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民の皆さんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることに繋がっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

「まち普請事業」についてはホームページをご覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiiKimachi/machibushin/>

Facebook「ヨコハマ市民まち普請ひろば」もご覧ください。

<https://www.facebook.com/yokohama.machibushin>

Webで検索

Webで検索

**横浜市地域まちづくり推進委員会
ヨコハマ市民まち普請事業部会委員【25年度選考委員】(五十音順)**

- 岡本 溢子 市民委員 (公募)
- 河上 牧子 慶應義塾大学産業研究所共同研究員 (都市政策・コミュニティ計画)
- 嶋田 昌子 NPO 法人横浜シティガイド協会理事 (まちづくりNPO)
- 菅 博嗣 株式会社あいランドスケープ研究所 (花とみどり・公園緑地)
- 早田 幸 早稲田大学社会科学部教授 (協働による都市・住民・コミュニティづくり)
- 名和田是彦 法政大学法学部教授 (公共哲学・コミュニティ論)
- 西田由紀子 よこはま市民メセナ協会会長 (市民活動)
- 松本 道雄 市民委員 (公募)



ヨコハマ市民まち普請事業
整備事例集 vol.9
平成 26 年度整備事例集

CONTENTS

- P.2 事業のあらまし
- P.3 整備事例 ① 町の防災拠点づくり (神奈川県)
- P.4 整備事例 ② 女性の笑顔で人と人をつなぐ地域応援プロジェクト (西区)
- P.5 整備事例 ③ 戸塚に新しい親子の居場所「ひろばカフェ」をつくろう (戸塚区)
- P.6 提案が「かたち」になるまで

事業のあらまし

「ヨコハマ市民まち普請事業」は、横浜市地域まちづくり推進条例に基づく支援策の一つとして、平成17年4月に始まり、27年4月で十周年を迎えました。

この「ヨコハマ市民まち普請事業」とは、市民の発意とアイデアによる地域課題の解決や魅力向上に資する施設(ハード)を、身近な地域の公共空間や私有地などに整備する提案を募集し、2回の公開コンテストにより選考された提案に対して次年度に最高500万円の整備助成金を交付する事業です。整備場所又はその近くの在住者、事業者又は土地・建物の所有者等の3人以上のグループであれば、どなたでも応募することができます。18年度から整備が始まり、26年度までに38か所が整備され、地域の皆さんのまちづくりの夢が実現しました。

今回は25年度に選考され、26年度に整備を行った3か所をご紹介します。25年度に実施した一次コンテストには、6件の応募があり、このうち5件が選考されました。二次コンテストではそのうちの1件と、24年度に一次コンテスト免除資格を得ていた1件が参加を辞退したため、4件が二次コンテストに臨み、3提案が整備助成対象に選考されました。

この事例集では、この3提案について、応募に至った経緯、グループのメンバーや地域の方々がコンテストに臨むまでに積み重ねてきた試行錯誤や工夫の様子、実際に整備を行う中で生まれた地域での新たなコミュニティや完成した施設のことなどを紹介します。自分たちのまちへの思いを自らの手で「かたち」にしていく「ヨコハマ市民まち普請事業」は、次は皆さんのまちで取り組んでみませんか。

整備の年度 (26年度)

コンテストの年度 (25年度)

ヨコハマ市民まち普請事業部会による選考 (学識経験者・まちづくり実践者・市民委員(公募))

市民自ら
整備・維持管理を実施
整備助成金として
最高500万円を交付

[2/2(日)]
二次コンテスト
開催

[10/6(日)]
活動懇談会・
成果報告会開催

[6/22(土)]
一次コンテスト
開催

[4/15~5/17]
整備提案募集

自ら主体となって
生活環境の整備を
したい市民グループ

「ヨコハマ市民まち普請事業」は、日本都市計画学会賞の平成26年度「石川賞」を受賞した事業です。

「石川賞」は都市計画に関する独創的または発啓的な業績により、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をした個人または団体を対象としている賞です。

「ヨコハマ市民まち普請事業」の授賞理由では、「物的な再生だけではなく、人と人とのつながりの再生も育まれるなど、市民主体の都市計画を体現するものとして大きな成果を挙げている」点を評価していただきました。

整備事例
1

町の防災拠点づくり(神奈川県)

自治会館の小さな防災倉庫づくりが、大きな防災まちづくりのきっかけに

新築した自治会館を、災害時に要援護者の一時避難場所とするため、防災備蓄品の収納庫をつくり、まちの防災の拠点としたのが、「松ヶ丘自治会」です。子育て支援活動用の備品の収納庫としても活用され、世代間交流の役割も果たすようになりました。

松ヶ丘は坂の多いまちです。平成24年2月に竣工した自治会館は坂の途中にあります。着工直前に東日本大震災が起きました。甚大な被害を目にし、「ここは高低差が大きい。逃げ遅れる人が出る」、「地域防災拠点まで行けないお年寄りもいる」と防災意識は一気に高まりました。

松ヶ丘地区の地域防災拠点は一旦坂を下りた向かいの丘の上。そこまでの避難には困難が予想されるので、独自の防災組織の検討に着手すると同時に、「自治会館を一時避難場所としよう」と意見が一致。自治会長が区役所

に会館改修の相談をしました。しかし、新たな助成は難しいとわかり、会長はがっかり。「でも、こんな制度がありますよ」と窓口で紹介されたのが、「ヨコハマ市民まち普請事業」だったので。締切間近だったので、会長はその場で申し込むことを決めました。

会長の英断に対して、自治会の皆さんは大慌て。「まち普請事業って何?」「二次コンテストに二次コンテスト?コンテストが二回もあるの?」と大混乱。しかし、「ここをまちの防災の拠点にしたい」というみんなの思いは強く、協力しながら短期間に提案書をまとめ、プレゼンテーションを完成させました。そしてその勢いそのままに審査を勝ち抜きました。

今、松ヶ丘自治会館はまちの防災拠点だけでなく、子育て支援拠点、囲碁や将棋のための文化拠点など、多様な機能を持つ場所になっています。それは防災倉庫の名前を子どもたち

につけてもらったり、多くの人たちの声を集めたりしながら整備を進めたからです。また、自治会として25年から「総参加防災訓練」を年に一度実施しています。これは、24年度より開始した要支援者の情報収集を兼ねた防災訓練ですが、この取組により町内の顔見知りが増え、見守り



子育て支援活動「すくすくかめっ子」の様子。

活動がはじまるなど、お互いに助け合えるような関係づくりが進み、一層まちの防災拠点としての機能も強化されました。27年度には、「松ヶ丘まちづくりプラン」が横浜市の「地域まちづくりプラン」として認定を受けました。「まち普請事業」が自治会を中心としたまちづくりに取り組むきっかけとなったのです。「提案書づくりは、大変だった」、「防災倉庫が地域の活性化にどう役に立つのか、実はあまり考えていなかった」、「改めてみんなで知恵を出した」、「これで、町内が結束し多くの町の方々に、声をかけてもらえるようになった」、「大変だったけど、結構楽しかったね」と、皆さん当時のことを振り返ると、達成感でいっぱい笑顔になります。これからの松ヶ丘自治会の歩みもとても楽しみです。



「総参加防災訓練」の様子。整備をきっかけに防災まちづくりの機運が高まっている。



女性の笑顔で人と人をつなぐ地域応援プロジェクト(西区)

女性の輝きが地域を照らす。「美」を通じた生きがいづくり、仲間づくり、まちづくり

個々にキャリアを重ねてきた女性たち。これからはもう少し心にゆとりを持ち、今までとは違う形で地域や社会と繋がることができないかと考えていました。高齢者の福祉施設にボランティアメイクに訪れた際、女性達に笑顔が溢れ、周りにも笑顔が伝わり、温かい雰囲気につつまれました。その経験から、まずは自分たちの特技であるメイク、ネイル、フラワーアレンジメントを活かした活動を始めました。

当初、公共施設を中心に活動していましたが、様々な制約が生じる中で、今後の活動拠点について検討していた時、桜木町にある「市民活動支援センター」から「ヨコハマ市民まち普請事業」を紹介されます。すぐに申請書を提出しましたが、二回のコンテストを通過する

までの一年間は、慣れない書類作成などに追われ、とにかく大変だったとおっしゃいます。しかし、コンテストに向けて動き始めると、主に賛同してくれる方が徐々に増え、地域の人たちとアイデアを出し合い、まちづくりコーナーや市役所のサポートもあり、見事整備助成対象の一つに選ばれ、「ディアナ横濱・Cafe & Salon」を整備しました。

オシャレに敏感な女性たちがつづいた拠点は、とても雰囲気の良いスペースに仕上がっています。スタッフの一人が描く季節に合わせた「黑板报アート」が素敵なアクセントになっています。

現在は週4日オープンしており、フラワーアレンジやメイク、アイシングクッキー作り、玄米による食養生など、女性にうれしいレッスンを

ひとつになっています。

入口のレンタルボックスに並ぶ小物も洗練されており、中にはデパートで販売している物もあるそうです。こちらも、レンタルボックスの outlet を経て講師デビューした人もいて、スタッフの皆さんは『夢を実現する場』として手応えを感じておられます。

浅間町は横浜駅に近いながらも、昔ながらの街並みが残る場所でもあります。地域としても、「ディアナ横濱」との出会いをきっかけに、新しい住民が地域と繋がることにも期待を寄せています。

「今後はさらにまちづくりを考える方々との繋がりを広げながら、夢を持つ人の次の一歩が踏み出せる場所になっていきたい」と「ディアナ横濱」のみなさん。

今日も「ディアナ横濱・Cafe & Salon」には素敵な女性が集っています。



空き店舗をリフォーム。赤い看板が目を引く。

定期的に開催しています。そのほかにもレンタルスペースの貸し出しもあり、それ以外の時間帯は美味しい珈琲をいただけるカフェも営業しています。レッスンに生徒として参加した人が、特技や眠っている資格を生かし、今度は自分が講師としてデビューする『双方向型レッスン』も特徴の



レッスン(アイシングクッキー)の様子。どのレッスンも人気で人が集まっている。



女性の笑顔で人と人をつなぐ地域応援プロジェクト(西区)
 整備主体：特定非営利活動法人ディアナ横濱
 整備場所：西区浅間町3丁目
 整備内容：コミュニティサロン(サロンスペース、キッチン、トイレ)、レンタルボックス等の整備
 工期：平成26年10月



レンタルボックスに並べられた素敵な品々。

戸塚に新しい親子の居場所「ひろばカフェ」をつくらう(戸塚区)

多世代、多分野の人が集まり子育てを支える地域の素敵スポット

戸塚駅から徒歩7分、商店街から一歩入った路地の店舗ビルの2階に整備された「こまちカフェ」。カフェスペースに加えて、講座など使えるレンタルスペースやお菓子づくりや料理教室も開催できるレンタルキッチンがあるなど多機能な場所になっています。木の香りのするカフェは毎日様々な方で賑わっています。

この場所はみんなの夢の集合体。ここにたどり着くまでに、いくつかの試行錯誤がありました。整備に取り組んだのは「特定非営利活動



お昼の時間のカフェスペースは親子連れで賑わう。木製の遊具も手づくり。



地域を中心に多くの協力者・賛同者が参加した、夢を出し合うワークショップ。

法人こまちが「す」の皆さん。元々は子育て中のお母さんたちへの子育ての情報と居場所の提供からスタートした団体です。「人は情報と居場所がないと孤立します。孤立しがちな子育て中のお母さんたちに情報を提供し、気軽に集える居場所をつくりたかった」というのは「こまちがらす」の代表はおっしゃいます。

カフェで何をしたいか、夢を出し合うワークショップも行い、そこで地域のネットワークがさらに広がりました。その時にみんなで出した夢は、その後全て実現できているそうです。

認知症カフェや育休後カフェ、地域のシニアによる見守り、「聞こえないママの会」、子どもの発達に心配なママのための「でこぼこの会」、企業と連携したマルシェなどは、「こまちカフェ」を拠点に、多世代、多分野の活動に広がっています。開店一周年のイベントには、本場に多くの人たちが集まったようです。

地域の方たちと夢を出し合い、そしてその実現に向けた次のステップがはじまっています。

表。特に、居場所としての「カフェ」にこだわりました。行政の資金で運営するのではなく、オープンに様々な人が関わられて、強みを発揮でき、自分なりの働き方を見つけることができる場が「カフェ」だったのです。

そのため、平成24年には週に一度、場所を間借りしてカフェをはじめ、その後、別の場所を借りて期限付きの常設のカフェをつくりました。最初はママたちだけで頑張っていたのですが、いつしか「子育ても、居場所づくりも、



認知症カフェのこまち。親子だけでなく多世代で多様な人が集う場になっている。



戸塚に新しい親子の居場所「ひろばカフェ」をつくらう(戸塚区)

整備主体：特定非営利活動法人こまちがらす

整備場所：戸塚区戸塚町

整備内容：コミュニティカフェ(カフェスペース、キッチン、トイレ)、レンタルスペース等の整備

竣工時期：平成26年5月

熱意に加えて、より具体性を

二次コンテストでは、検討を重ね磨きあげた提案を発表していただきます。発表は、映像を用いたり、寸劇をするなど工夫して行われています。公開での審査・投票を経て、助成対象となる提案が選考されます。



審査基準

- ① 創意工夫
- ② 実現性
- ③ 公共性
- ④ 費用対効果
- ⑤ 地域まちづくりへの発展性

先輩として サポートする立場に

整備が完了したグループには、地域まちづくりをさらに盛り上げていくためのお力添えをお願いしています。他のグループやこれから提案を考えている方々への助言・支援にご協力ください。

ジャンプ

年をまたいで
ゴールへ向かう

整備
(次年度)

ステップ

上を目指して
さらに前進

二次
コンテスト

通過

活動
懇談会

整備・活用運営

つくって終わりではありません。維持管理、活用運営を通して、まちづくりの輪を広げていきましょう。



整備助成金

二次コンテストを通過すると、設計費、工事費、工事監理費などに使うことができる最高**500万円**の整備助成金を受けることができます。

アドバイス



特色

2

2回の公開コンテスト

まち普請事業では、助成対象の提案を2回のコンテストで選考します。選考プロセスが見えるよう、いずれのコンテストも公開で行います。

特色

3

検討の支援

提案の実現性を高めるために、関係機関との話し合いの場「提案検討会」に市の担当者も同席します。

提案が「かたち」になるまで

相談・応募から活用運営までの流れ



アイデアと熱意が勝負

一次コンテストでは、審査員と一般参加者に向けて提案内容を説明していただきます。審査員との質疑応答を経て、公開投票により二次コンテストへ進む提案が選考されます。



審査基準 ①創意工夫 ②意欲 ③公共性

ここから夢がスタート

「応募申込書」と地域で取り組んでみたい施設整備のアイデアをまとめた「提案書」を提出してください。

応募

相談

事前登録

※事前登録は応募の必須条件ではありません。

ホップ
まずは前を向いて
大きな一歩
.....
一次
コンテスト

通過

意見交換と

計画づくりの段階で、審査員、まち普請事業の先輩と意見交換できる場です。二次コンテスト通過に向けて、具体的なアドバイスを受けることができます。

活動助成金

一次コンテストを通過すると、まちづくりの専門家の支援や活動の広報などに使える、最高 30 万円の活動助成金を受けることができます。

特色

1 いつでも相談

- 市の担当者から、事業の詳細、応募の要件などをご説明します。「無理かな？」と思うものでも、担当者も一緒に考えます。お気軽にご相談ください。
- <事前登録制度>があり、登録すると、まちづくりの専門家の派遣を無料で受けることができます。

ヨコハマ市民まち普請事業

整備事例集 vol.9

●平成 26 年度整備事例集

- 発行 平成 27 年 11 月
横浜市都市整備局地域まちづくり課
〒231-0017 横浜市中区港町 1-1 TEL 045-671-2679 FAX 045-663-8641
- 編集・デザイン 特定非営利活動法人 アクションポート横浜
- デザイン・印刷 株式会社野毛印刷社

ヨコハマ人・まち
-まちの人がまちをつくる-

身近なまちづくりに役立つ無料のメールマガジン「ヨコハマ 人・まち」を読みませんか？

メールマガジンについてはホームページをご覧ください。

ヨコハマ 人・まち

検索

